



舞心子

井澤

本問文庫
文庫 14
A111
3



翁學子詩義稿

文庫
A111
3

主観的

主観的
主観的
主観的

主観的
主観的
主観的

主観的
主観的
主観的

主観的
主観的
主観的

客観的

客観的

客観的
客観的
客観的

客観的

客観的

客観的
客観的
客観的

客観的

客観的
客観的
客観的



善学海義

明治二十一年十月廿九日 早稻田大学文科三年に於て

結語
上

思想の階級を秩序を保つてめんがためは
本質我々の出を果して私に甚かに善学とよぶに就し what

善学海義、此の三問を掲げます。 辨明を以ては善学は

とは何のやうな行状で、人々とは如何にして之を成すものか why

とは何の為に何の必要ありて之を成すものか how to do it

(1) 如何にして善学は先づ何れを成すものか how to do it

(5)

把に感ある限り、のち、その現象を之と稱し、~~之~~一~~つ~~の外には現
 象なり。即ち存在なり。と云ふにす。又他の非現象一層高き地にて、
 之域の外に現象の外に覺する存在あるやも計じ、~~之~~は存在は
 他に之と云ふより、~~之~~は自家撞着して
~~存在する~~有り。有と云ふに、~~之~~は思ふはん。之~~は~~右の
 べき。意識である。意識の外に存在ありと云ふは、~~之~~は意識の外
 に意識あり、~~之~~は意識にて、~~之~~は意識なるを成して、~~之~~は若
 し、~~之~~は意識の外に何れかに在ると思ふ。之と云ふは、其の思ふ
 此の思ふは、意識である。意識の世界の~~之~~は、~~之~~は思ふ。
 斯くして、~~之~~は意識の外に存在ありと云ふは、~~之~~は思ふ。之に據り、~~之~~は
 意識の外に存在ありと云ふは、~~之~~は意識の外に存在ありと云ふは、~~之~~は思ふ。

道徳としての己の心は宇宙の成り立ち

其の成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙に概念上なく宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

その成り立ち ~~宇宙の成り立ち~~ 宇宙の成り立ち

(6)

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

宇宙の成り立ち

Present time

side

(8)

之志で専ら注ぎておるとか衝動じきとの事別格の現象は
 ちの事言の上見さうは学問の情の領域の業終ては、是に知
 識でも感情でも本然が直接に之を動かす事がある事と
 の事ありが中に意志といふものもあつた事と、如斯くは行
 を代表して感情の情や知識を動因とする事と、是は其の感
 情は本然の言、内面的活動の直接の表現に、知識は其の外
 面的活動の直接の表現、其の他には何れもあつた。さうは若し本然
 的動因は自由であるか其の動因を動因として之に
 下しては宇宙は動的である機械である因果的である。
 云々である事、然るに之は云々である事、然るに
 是れが我々の意識に自由である事、是れが我々の意識

(11)

此の世に於ては既に絶えたる之感は
一感情を以て形也若くは感情は推定せしむる事也
此の世に於ては既に絶えたる之感は
一感情を以て形也若くは感情は推定せしむる事也

智波の感情は同様に三つに記すべし
~~其の第一は~~
 本を前回に述べて来た如く
 けはは路の以海は、~~其の~~ 第一の範圍を
 善人の~~其の~~ 神に到達する時は重んじて
 せんがけいよは、~~其の~~ 神の神にまかせて
 即ち真善美神の四に干し其干係を定むる
 とすべしと云ふ~~其の~~ 神の神の神を斯るに
 感情で表わす~~其の~~ 神の神の神を斯るに
 後の判定は感情である。又善も強らば
 命神感情である。斯るに一かのみを
 字の言の最後の価値は我れ~~其の~~ 直接に

予のこの場合の我は生存及知能の二語によつて我を指し
するを得るに存し知能に其の因位上に何をばさしとすか
と云はば我には不可知といふに二語によつて我の利
害と云ふは判断せらるる

又我の利害の事ある方式は二つあり一は直接に他
に及ぼすあり二は我のみのみの利害に依りて
感ずるありとす然るに他は他人の利害に依りて
感ずるありとす此の二つを以て我の利害とす
一は同様の事あり他は異種の事ありとす此の二つを以て
我の利害とす此の二つを以て我の利害とす

(14)

はす改に善と云ふは善をす。之の道徳である。一の物は
我の利害の事あり二は我のみのみの利害に依りて
感ずるありとす然るに他は他人の利害に依りて
感ずるありとす此の二つを以て我の利害とす
一は同様の事あり他は異種の事ありとす此の二つを以て
我の利害とす此の二つを以て我の利害とす

大く善を感じることより、^{おぼろげに}訓練の^{おぼろげに}遣付若しは習慣で、^{おぼろげに}
 存場全に於て、^{おぼろげに}が複雑な場合には、^{おぼろげに}おぼろげに、^{おぼろげに}
 以下、^{おぼろげに}運給的判斷に、^{おぼろげに}おぼろげに、^{おぼろげに}
 小見事、^{おぼろげに}運給的判斷の、^{おぼろげに}おぼろげに、^{おぼろげに}
 善(とあること) ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに}
 の永久化の作用、^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに}
 は、^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに}
 (運給) ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに}
 の、^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに}
 作用、^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに}
 及び、^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに} ^{おぼろげに}

(21)

張らぬ情の苦し味を以て計我不可得の性も帯びぬれぬ
 予の其の位序は由生理的なる故に改めらるべしとせらるる見
 角其の帯びぬれぬと云ふ所の性も帯びぬれぬを感せし
 めるべしと云ふは、^{の性も}帯びぬれぬの現
 らる理由を以ての性も帯びぬれぬの性も帯びぬれぬ
 先成りたる性も帯びぬれぬの性も帯びぬれぬ
 に在るは其の性も帯びぬれぬの性も帯びぬれぬ
 の性も帯びぬれぬの性も帯びぬれぬの性も帯びぬれぬ
 故に帯びぬれぬの性も帯びぬれぬの性も帯びぬれぬ
~~帯びぬれぬの性も帯びぬれぬの性も帯びぬれぬ~~
 帯びぬれぬの性も帯びぬれぬの性も帯びぬれぬ

返りまると善と不現あり

~~格好也と云ふは~~ 格好は格好なり

の字も善も字も格好は科好

格好の面を重しして 格好の字も格好なり

に格好の価値ありと云ふは格好の字も格好なり

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

の方式で云ふ其の四月の事言ひ換へば行ふ感

立付けたりと云ふ事言ひ換へば行ふ感

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

格好の字も格好なりと云ふは格好の字も格好なり

を成せることゝ之が知識のせいと理由に於けるは道徳の
有る~~情~~情を奉侍するものと云ふが其後日は前記の跡が
之を道徳~~情~~情に按檢し維持し之後の行を之に從ふこと
に在りてあり
只けに善なる一程日増進するは其の環境より善とす
現象が神とを現象と同しく直覺に善なるもより多く感
情を善とすをせす善なる善は成程なる判断す 瞬間は感
情を善が其の前の善なるは故に研究し別々の之に
ありては善なるを判断すは其の前の之をせすも善なる
感情によることより善なる善は善なる~~情~~情
終端上を感情であるが善なる感情の絶対的化は
此終端上を善なるの善なるを善なると云ふことの本事を

(26)

本論
第一、善性の分類

在来の善学及び種々の善理による分類をなす。以下に
 以内容の上より善学を善性の善なるものに解する。善性の善なるものに
 5に已別して其の善なり。又其の外形より善なるものを其の善性の善なるもの
 として研究する。善性の善なるものとして善なるものは善なるものとして善なるもの
 類を分けしに之を *Volkslehre*、*Technik*、*Handwerk*、*Handwerk*、*Handwerk*
 の四者を代表して之を *Handwerk*、*Handwerk*、*Handwerk*、*Handwerk*、*Handwerk*
 (1) 形式の内容の善 *inhaltsreiche*、*inhaltsreiche*、*inhaltsreiche*、*inhaltsreiche*、*inhaltsreiche*
 (2) 理想的と感性的の善 *ideale*、*ideale*、*ideale*、*ideale*、*ideale*
 (3) 目的の善 *zweckmäßig*、*zweckmäßig*、*zweckmäßig*、*zweckmäßig*、*zweckmäßig*
 Der konkrete Idealismus、
 Der abstrakte Idealismus
 Der Idealismus
 Der Idealismus

の三つに分けられ、其の善なるものを *Handwerk*、*Handwerk*、*Handwerk*、*Handwerk*、*Handwerk*

127

表(4)

まことに *Brumby's History of Aesthetics* は 神妙なる 批評の 書なり

その 著者も 必 然 の 方 也

(5) 模写的と標現的の区別 *imitation & symbolic* の 区別 あり

外形の方で *Philosophical & critical*

(6) 批評的と理論的の区別 *Critical & Philosophical*

その 区別は 又 *System der ästhetischen Kritik* の 区別 あり

(7) ~~批評的~~と理論的の区別 *Wissenschaftliche & Metaphysische*

この 外形の方の 区別は 易きに なる 事 あり *Vorrede der Aesthetik*

其の 外形の方の 区別は *Die Aesthetik von oben & die Aesthetik von unten* あり

区別 あり

今 以て 是れを 区別 して 行ふ べし

(29)

(2) 理念的と感性的

これは即ち上と下が内容的に異なる中を更に二別して前者を名と内容
 と其中にもおのづから理念と感性的の差取をせしむるべし。即ち、
 此れが「一」であるが「二」は感性的の差取すは感性的の
 内容とするべし。即ち、
 今意味である。

(3) 具象的と抽象的

これは上の理念的の差取を更に理念として中に理念を抽象
 的のものとして記すは之が具象的であると思ふは理念を記すに
 具象的である。即ち、
 此れが「一」である。之は「二」である。即ち、
 の右も左も部分である。即ち、
 之れを記すに理念を

別な
~~別な~~

(32)

(2011年10月15日 21時) (6)

この書は多岐にわたる事柄を扱っており、その中の(5)までの概説をうかがう

(6) 批評家と整理的、これは朱の書評史の著者ボサンヤ氏がカント

以前の書評史を叙す時に用いた方法で、外形的即ち書評史の

上巻から見ると、この書が意味はつまずき、其の指字系統の自然

の流転として、この論じることと文藝批評家の(田原)或郷の批評が、

論じこの本の例として、*Steffens*、*Lessing*、

であるか、*Mandelstam*、*Shaff*、*Steffens*、*Lessing*、

手口別にいうと、電報の意味である、はやく早くに叙記の便宜上、

斯うしたに区別をしようとする

(7) 科学的と整理的、是は種々の語で、即ち同じものを、方法を理

り述べて、一つの見方を、その原のものを、その原の全解に、其の

で、その上には、他のリット、その上、同じく、凡そ、陽動、その原、

(24)

Idealismus & Realismus in der Schöpfung des geschichtlichen

ästhetische der Welt (Theater) - 小説家である ~~小説家である~~ 小説家である

かゝる小説家は無限のうちに無限の理想を具へたものである

その理想は天地の存続を視るに在りて、~~その理想は~~ 現実的とは異なる

高に外なるものとして、~~その理想は~~ Schelling の如き小説家、Herder

Schopenhauer の如き小説家、~~その理想は~~ 其他 (H. Schopenhauer) の如き

Populärästhetik 即ち俗小説によるの現象である ~~その理想は~~ Herder

等の理想を描くといふ一系は、~~その理想は~~ 俗小説を描くを以てするに及ばぬ

その是れは小説の批評的と云ふに因する又ボカンゲルは

Erkenntnis (Kultur) のより ~~その理想は~~ 小説は歴史の理想を以てする

りせず直接に其の審判を以てし、~~その理想は~~ 小説は歴史の理想を以てする

べきこと ~~その理想は~~ Herder や Schopenhauer を以てして其の如き

べきこと ~~その理想は~~ Herder や Schopenhauer を以てして其の如き

けりの中の最も重要且任利と認められた主観的と客観的との

けり二子理を切り切りえりし古来の研究法を可欺し且

批評の行へると思はれは二つとも其のうちに

類で研究した結果に同じものはありませぬが實際、研究法方

(三)

上の白題、例は科学的な研究法に於ては

内なるものはその重要なる要素を以てして研究法に

之を参考して評すべきに非ざるべし

ひますけり評法の結着が如何なる研究法に非ざるべし

ら直にその研究法の根拠の如何を批評するに非ざるべし

の正確なる研究法に非ざるべし

交情せしめて全理との干渉を定むべきに非ざるべし

評法、之れを以てして研究法に非ざるべし

存の、評法を以てして研究法に非ざるべし

客観的と形式的との

(47)

心の裡のことは依空うて空寂にして、人の自空の形を~~た~~に
 當知の方~~の~~………(即ち)………
 形式としての………
 形式なるものを研究の余地………
 合す………併し………
 ものと………
 もよりの………
 は………併し………
 し………

次は………
 又………
 二………
 形式の………
 批評

(54)

実を喰ふ快感に美を感ずるは花を喰ふのと違ふなり植物の
 別れ違ふを来つてはさかたにさくも花のやうな実も例
 へ柿の實を喰ふのさかたの別れは味こそなほ同一の
 花の中其の味合にさくも味も美を感ずるはさかたに
 實を喰ふのさかたにさくも味も美を感ずるはさかたに
 物と別れをさくも 植物 植物の別れはさかたに甲は快感
 (さかたに快感をさくも) 別れは味こそなほ同一の
 味こそなほ同一の味こそなほ同一の味こそなほ同一の味
 感こそなほ同一の味こそなほ同一の味こそなほ同一の味
 甲とさかたの別れはさかたにさくも味も美を感ずるは
 花のさかたにさくも味も美を感ずるは花のさかたに
 別れは味こそなほ同一の味こそなほ同一の味こそなほ

(59) *Deire*

の程にもある蓋し其の即ち快感の強弱を *Deire* の強弱を表現する
 ところの快感の強弱を表現するに依りて *Deire* の強弱を表現する
Satisfaction of Pleasure
 即ち快感の強弱に依りて *Deire* の強弱を表現する
 又快感の強弱を表現するに依りて *Deire* の強弱を表現する
Deire の強弱を表現するに依りて *Deire* の強弱を表現する
 の程にもある蓋し其の即ち快感の強弱を *Deire* の強弱を表現する

(59)

(59) *Deire* の強弱を表現するに依りて *Deire* の強弱を表現する
 又快感の強弱を表現するに依りて *Deire* の強弱を表現する
 の程にもある蓋し其の即ち快感の強弱を *Deire* の強弱を表現する

である。Simulid Reutstat から遠くこの山にまで、斯うして Schwin は
 一之ニト云ふ。Gelido の括弧括弧する併しけの括弧も、無通括
 とは違ふ。Schwin の括弧を引いた。Schwin gelido と併しけの括弧で
 あり、併括う。実情と違ふ。Gelid magis magis といふ
 固い括弧の弱い括弧として ~~括弧~~ といふ。Schwin の括弧の
 来るるも、実情と違ふ。括弧を引いた。Schwin の括弧の
Mitunterkunft といふ。Schwin の括弧の来るるも、実情と違ふ。括弧を引いた。
 に来るる *Quinto* や *Quinto* といふ。Schwin の括弧の来るるも、実情と違ふ。括弧を引いた。
 の来るる *Quinto* といふ。Schwin の括弧の来るるも、実情と違ふ。括弧を引いた。
 斯うして、併括う。実情と違ふ。括弧を引いた。Schwin の括弧の来るるも、実情と違ふ。括弧を引いた。
 といふ。併括う。実情と違ふ。括弧を引いた。Schwin の括弧の来るるも、実情と違ふ。括弧を引いた。
 併我となつて、併括う。実情と違ふ。括弧を引いた。Schwin の括弧の来るるも、実情と違ふ。括弧を引いた。

(61)

この¹描とよめを二つに見せると、即ち *Schlimm gefühl* の方の描に、²は其名
を³乞ふ、其の⁴乞ふ時の⁵描の⁶様子を⁷言ふ。予こ⁸之より⁹始まる¹⁰と¹¹吾人の¹²
快を¹³感ぜ¹⁴ざる¹⁵を¹⁶と¹⁷呼ぶ¹⁸。呼ぶ¹⁹といふ²⁰。情と²¹同じ²²情と²³求²⁴は
らう。二つは²⁵後に²⁶描を²⁷し²⁸幻象を²⁹せむ³⁰といふ³¹予³²の³³前³⁴は³⁵此³⁶で³⁷流³⁸れ
て³⁹寂⁴⁰に⁴¹移⁴²る⁴³中⁴⁴後⁴⁵を⁴⁶描⁴⁷て⁴⁸執⁴⁹柳⁵⁰で⁵¹寂⁵²を⁵³判⁵⁴断⁵⁵す⁵⁶とい⁵⁷は⁵⁸れ⁵⁹る⁶⁰
け⁶¹は⁶²此⁶³で⁶⁴オ⁶⁵の⁶⁶解⁶⁷は⁶⁸斯⁶⁹中⁷⁰に⁷¹二⁷²つ⁷³の⁷⁴描⁷⁵は⁷⁶何⁷⁷う⁷⁸に⁷⁹こ⁸⁰存⁸¹す⁸²か
とい⁸³ふ⁸⁴は⁸⁵二⁸⁶つ⁸⁷の⁸⁸同⁸⁹時⁹⁰に⁹¹存⁹²す⁹³る⁹⁴も⁹⁵ある⁹⁶か⁹⁷否⁹⁸か⁹⁹。九¹⁰⁰は¹⁰¹い¹⁰²ふ¹⁰³は¹⁰⁴二¹⁰⁵つ¹⁰⁶の¹⁰⁷
い¹⁰⁸ふ¹⁰⁹は¹¹⁰、¹¹¹泣¹¹²く¹¹³て¹¹⁴起¹¹⁵る¹¹⁶とい¹¹⁷ふ¹¹⁸は¹¹⁹、¹²⁰後¹²¹を¹²²即¹²³ち¹²⁴寂¹²⁵を¹²⁶感¹²⁷ず¹²⁸た¹²⁹つ¹³⁰時¹³¹に
前¹³²を¹³³感¹³⁴ず¹³⁵た¹³⁶は¹³⁷、¹³⁸月¹³⁹代¹⁴⁰り¹⁴¹し¹⁴²る¹⁴³、¹⁴⁴時¹⁴⁵に¹⁴⁶か¹⁴⁷ら¹⁴⁸な¹⁴⁹る¹⁵⁰は¹⁵¹、¹⁵²合¹⁵³時¹⁵⁴こ¹⁵⁵の¹⁵⁶意¹⁵⁷
を¹⁵⁸成¹⁵⁹す¹⁶⁰、¹⁶¹い¹⁶²ふ¹⁶³は¹⁶⁴、¹⁶⁵二¹⁶⁶つ¹⁶⁷の¹⁶⁸同¹⁶⁹時¹⁷⁰に¹⁷¹存¹⁷²す¹⁷³る¹⁷⁴も¹⁷⁵ある¹⁷⁶
か¹⁷⁷否¹⁷⁸か¹⁷⁹。二¹⁸⁰つ¹⁸¹の¹⁸²同¹⁸³時¹⁸⁴に¹⁸⁵存¹⁸⁶す¹⁸⁷る¹⁸⁸も¹⁸⁹ある¹⁹⁰か¹⁹¹否¹⁹²か¹⁹³。
二¹⁹⁴つ¹⁹⁵の¹⁹⁶同¹⁹⁷時¹⁹⁸に¹⁹⁹存²⁰⁰す²⁰¹る²⁰²も²⁰³ある²⁰⁴か²⁰⁵否²⁰⁶か²⁰⁷。二²⁰⁸つ²⁰⁹の²¹⁰同²¹¹時²¹²に²¹³存²¹⁴す²¹⁵る²¹⁶も²¹⁷
ある²¹⁸か²¹⁹否²²⁰か²²¹。二²²²つ²²³の²²⁴同²²⁵時²²⁶に²²⁷存²²⁸す²²⁹る²³⁰も²³¹ある²³²か²³³否²³⁴か²³⁵。
二²³⁶つ²³⁷の²³⁸同²³⁹時²⁴⁰に²⁴¹存²⁴²す²⁴³る²⁴⁴も²⁴⁵ある²⁴⁶か²⁴⁷否²⁴⁸か²⁴⁹。二²⁵⁰つ²⁵¹の²⁵²同²⁵³時²⁵⁴に²⁵⁵存²⁵⁶す²⁵⁷る²⁵⁸も²⁵⁹
ある²⁶⁰か²⁶¹否²⁶²か²⁶³。二²⁶⁴つ²⁶⁵の²⁶⁶同²⁶⁷時²⁶⁸に²⁶⁹存²⁷⁰す²⁷¹る²⁷²も²⁷³ある²⁷⁴か²⁷⁵否²⁷⁶か²⁷⁷。
二²⁷⁸つ²⁷⁹の²⁸⁰同²⁸¹時²⁸²に²⁸³存²⁸⁴す²⁸⁵る²⁸⁶も²⁸⁷ある²⁸⁸か²⁸⁹否²⁹⁰か²⁹¹。二²⁹²つ²⁹³の²⁹⁴同²⁹⁵時²⁹⁶に²⁹⁷存²⁹⁸す²⁹⁹る³⁰⁰も³⁰¹
ある³⁰²か³⁰³否³⁰⁴か³⁰⁵。二³⁰⁶つ³⁰⁷の³⁰⁸同³⁰⁹時³¹⁰に³¹¹存³¹²す³¹³る³¹⁴も³¹⁵ある³¹⁶か³¹⁷否³¹⁸か³¹⁹。
二³²⁰つ³²¹の³²²同³²³時³²⁴に³²⁵存³²⁶す³²⁷る³²⁸も³²⁹ある³³⁰か³³¹否³³²か³³³。二³³⁴つ³³⁵の³³⁶同³³⁷時³³⁸に³³⁹存³⁴⁰す³⁴¹る³⁴²も³⁴³
ある³⁴⁴か³⁴⁵否³⁴⁶か³⁴⁷。二³⁴⁸つ³⁴⁹の³⁵⁰同³⁵¹時³⁵²に³⁵³存³⁵⁴す³⁵⁵る³⁵⁶も³⁵⁷ある³⁵⁸か³⁵⁹否³⁶⁰か³⁶¹。
二³⁶²つ³⁶³の³⁶⁴同³⁶⁵時³⁶⁶に³⁶⁷存³⁶⁸す³⁶⁹る³⁷⁰も³⁷¹ある³⁷²か³⁷³否³⁷⁴か³⁷⁵。二³⁷⁶つ³⁷⁷の³⁷⁸同³⁷⁹時³⁸⁰に³⁸¹存³⁸²す³⁸³る³⁸⁴も³⁸⁵
ある³⁸⁶か³⁸⁷否³⁸⁸か³⁸⁹。二³⁹⁰つ³⁹¹の³⁹²同³⁹³時³⁹⁴に³⁹⁵存³⁹⁶す³⁹⁷る³⁹⁸も³⁹⁹ある⁴⁰⁰か⁴⁰¹否⁴⁰²か⁴⁰³。
二⁴⁰⁴つ⁴⁰⁵の⁴⁰⁶同⁴⁰⁷時⁴⁰⁸に⁴⁰⁹存⁴¹⁰す⁴¹¹る⁴¹²も⁴¹³ある⁴¹⁴か⁴¹⁵否⁴¹⁶か⁴¹⁷。二⁴¹⁸つ⁴¹⁹の⁴²⁰同⁴²¹時⁴²²に⁴²³存⁴²⁴す⁴²⁵る⁴²⁶も⁴²⁷
ある⁴²⁸か⁴²⁹否⁴³⁰か⁴³¹。二⁴³²つ⁴³³の⁴³⁴同⁴³⁵時⁴³⁶に⁴³⁷存⁴³⁸す⁴³⁹る⁴⁴⁰も⁴⁴¹ある⁴⁴²か⁴⁴³否⁴⁴⁴か⁴⁴⁵。
二⁴⁴⁶つ⁴⁴⁷の⁴⁴⁸同⁴⁴⁹時⁴⁵⁰に⁴⁵¹存⁴⁵²す⁴⁵³る⁴⁵⁴も⁴⁵⁵ある⁴⁵⁶か⁴⁵⁷否⁴⁵⁸か⁴⁵⁹。二⁴⁶⁰つ⁴⁶¹の⁴⁶²同⁴⁶³時⁴⁶⁴に⁴⁶⁵存⁴⁶⁶す⁴⁶⁷る⁴⁶⁸も⁴⁶⁹
ある⁴⁷⁰か⁴⁷¹否⁴⁷²か⁴⁷³。二⁴⁷⁴つ⁴⁷⁵の⁴⁷⁶同⁴⁷⁷時⁴⁷⁸に⁴⁷⁹存⁴⁸⁰す⁴⁸¹る⁴⁸²も⁴⁸³ある⁴⁸⁴か⁴⁸⁵否⁴⁸⁶か⁴⁸⁷。
二⁴⁸⁸つ⁴⁸⁹の⁴⁹⁰同⁴⁹¹時⁴⁹²に⁴⁹³存⁴⁹⁴す⁴⁹⁵る⁴⁹⁶も⁴⁹⁷ある⁴⁹⁸か⁴⁹⁹否⁵⁰⁰か⁵⁰¹。二⁵⁰²つ⁵⁰³の⁵⁰⁴同⁵⁰⁵時⁵⁰⁶に⁵⁰⁷存⁵⁰⁸す⁵⁰⁹る⁵¹⁰も⁵¹¹
ある⁵¹²か⁵¹³否⁵¹⁴か⁵¹⁵。二⁵¹⁶つ⁵¹⁷の⁵¹⁸同⁵¹⁹時⁵²⁰に⁵²¹存⁵²²す⁵²³る⁵²⁴も⁵²⁵ある⁵²⁶か⁵²⁷否⁵²⁸か⁵²⁹。
二⁵³⁰つ⁵³¹の⁵³²同⁵³³時⁵³⁴に⁵³⁵存⁵³⁶す⁵³⁷る⁵³⁸も⁵³⁹ある⁵⁴⁰か⁵⁴¹否⁵⁴²か⁵⁴³。二⁵⁴⁴つ⁵⁴⁵の⁵⁴⁶同⁵⁴⁷時⁵⁴⁸に⁵⁴⁹存⁵⁵⁰す⁵⁵¹る⁵⁵²も⁵⁵³
ある⁵⁵⁴か⁵⁵⁵否⁵⁵⁶か⁵⁵⁷。二⁵⁵⁸つ⁵⁵⁹の⁵⁶⁰同⁵⁶¹時⁵⁶²に⁵⁶³存⁵⁶⁴す⁵⁶⁵る⁵⁶⁶も⁵⁶⁷ある⁵⁶⁸か⁵⁶⁹否⁵⁷⁰か⁵⁷¹。
二⁵⁷²つ⁵⁷³の⁵⁷⁴同⁵⁷⁵時⁵⁷⁶に⁵⁷⁷存⁵⁷⁸す⁵⁷⁹る⁵⁸⁰も⁵⁸¹ある⁵⁸²か⁵⁸³否⁵⁸⁴か⁵⁸⁵。二⁵⁸⁶つ⁵⁸⁷の⁵⁸⁸同⁵⁸⁹時⁵⁹⁰に⁵⁹¹存⁵⁹²す⁵⁹³る⁵⁹⁴も⁵⁹⁵
ある⁵⁹⁶か⁵⁹⁷否⁵⁹⁸か⁵⁹⁹。二⁶⁰⁰つ⁶⁰¹の⁶⁰²同⁶⁰³時⁶⁰⁴に⁶⁰⁵存⁶⁰⁶す⁶⁰⁷る⁶⁰⁸も⁶⁰⁹ある⁶¹⁰か⁶¹¹否⁶¹²か⁶¹³。
二⁶¹⁴つ⁶¹⁵の⁶¹⁶同⁶¹⁷時⁶¹⁸に⁶¹⁹存⁶²⁰す⁶²¹る⁶²²も⁶²³ある⁶²⁴か⁶²⁵否⁶²⁶か⁶²⁷。二⁶²⁸つ⁶²⁹の⁶³⁰同⁶³¹時⁶³²に⁶³³存⁶³⁴す⁶³⁵る⁶³⁶も⁶³⁷
ある⁶³⁸か⁶³⁹否⁶⁴⁰か⁶⁴¹。二⁶⁴²つ⁶⁴³の⁶⁴⁴同⁶⁴⁵時⁶⁴⁶に⁶⁴⁷存⁶⁴⁸す⁶⁴⁹る⁶⁵⁰も⁶⁵¹ある⁶⁵²か⁶⁵³否⁶⁵⁴か⁶⁵⁵。
二⁶⁵⁶つ⁶⁵⁷の⁶⁵⁸同⁶⁵⁹時⁶⁶⁰に⁶⁶¹存⁶⁶²す⁶⁶³る⁶⁶⁴も⁶⁶⁵ある⁶⁶⁶か⁶⁶⁷否⁶⁶⁸か⁶⁶⁹。二⁶⁷⁰つ⁶⁷¹の⁶⁷²同⁶⁷³時⁶⁷⁴に⁶⁷⁵存⁶⁷⁶す⁶⁷⁷る⁶⁷⁸も⁶⁷⁹
ある⁶⁸⁰か⁶⁸¹否⁶⁸²か⁶⁸³。二⁶⁸⁴つ⁶⁸⁵の⁶⁸⁶同⁶⁸⁷時⁶⁸⁸に⁶⁸⁹存⁶⁹⁰す⁶⁹¹る⁶⁹²も⁶⁹³ある⁶⁹⁴か⁶⁹⁵否⁶⁹⁶か⁶⁹⁷。
二⁶⁹⁸つ⁶⁹⁹の⁷⁰⁰同⁷⁰¹時⁷⁰²に⁷⁰³存⁷⁰⁴す⁷⁰⁵る⁷⁰⁶も⁷⁰⁷ある⁷⁰⁸か⁷⁰⁹否⁷¹⁰か⁷¹¹。二⁷¹²つ⁷¹³の⁷¹⁴同⁷¹⁵時⁷¹⁶に⁷¹⁷存⁷¹⁸す⁷¹⁹る⁷²⁰も⁷²¹
ある⁷²²か⁷²³否⁷²⁴か⁷²⁵。二⁷²⁶つ⁷²⁷の⁷²⁸同⁷²⁹時⁷³⁰に⁷³¹存⁷³²す⁷³³る⁷³⁴も⁷³⁵ある⁷³⁶か⁷³⁷否⁷³⁸か⁷³⁹。
二⁷⁴⁰つ⁷⁴¹の⁷⁴²同⁷⁴³時⁷⁴⁴に⁷⁴⁵存⁷⁴⁶す⁷⁴⁷る⁷⁴⁸も⁷⁴⁹ある⁷⁵⁰か⁷⁵¹否⁷⁵²か⁷⁵³。二⁷⁵⁴つ⁷⁵⁵の⁷⁵⁶同⁷⁵⁷時⁷⁵⁸に⁷⁵⁹存⁷⁶⁰す⁷⁶¹る⁷⁶²も⁷⁶³
ある⁷⁶⁴か⁷⁶⁵否⁷⁶⁶か⁷⁶⁷。二⁷⁶⁸つ⁷⁶⁹の⁷⁷⁰同⁷⁷¹時⁷⁷²に⁷⁷³存⁷⁷⁴す⁷⁷⁵る⁷⁷⁶も⁷⁷⁷ある⁷⁷⁸か⁷⁷⁹否⁷⁸⁰か⁷⁸¹。
二⁷⁸²つ⁷⁸³の⁷⁸⁴同⁷⁸⁵時⁷⁸⁶に⁷⁸⁷存⁷⁸⁸す⁷⁸⁹る⁷⁹⁰も⁷⁹¹ある⁷⁹²か⁷⁹³否⁷⁹⁴か⁷⁹⁵。二⁷⁹⁶つ⁷⁹⁷の⁷⁹⁸同⁷⁹⁹時⁸⁰⁰に⁸⁰¹存⁸⁰²す⁸⁰³る⁸⁰⁴も⁸⁰⁵
ある⁸⁰⁶か⁸⁰⁷否⁸⁰⁸か⁸⁰⁹。二⁸¹⁰つ⁸¹¹の⁸¹²同⁸¹³時⁸¹⁴に⁸¹⁵存⁸¹⁶す⁸¹⁷る⁸¹⁸も⁸¹⁹ある⁸²⁰か⁸²¹否⁸²²か⁸²³。
二⁸²⁴つ⁸²⁵の⁸²⁶同⁸²⁷時⁸²⁸に⁸²⁹存⁸³⁰す⁸³¹る⁸³²も⁸³³ある⁸³⁴か⁸³⁵否⁸³⁶か⁸³⁷。二⁸³⁸つ⁸³⁹の⁸⁴⁰同⁸⁴¹時⁸⁴²に⁸⁴³存⁸⁴⁴す⁸⁴⁵る⁸⁴⁶も⁸⁴⁷
ある⁸⁴⁸か⁸⁴⁹否⁸⁵⁰か⁸⁵¹。二⁸⁵²つ⁸⁵³の⁸⁵⁴同⁸⁵⁵時⁸⁵⁶に⁸⁵⁷存⁸⁵⁸す⁸⁵⁹る⁸⁶⁰も⁸⁶¹ある⁸⁶²か⁸⁶³否⁸⁶⁴か⁸⁶⁵。
二⁸⁶⁶つ⁸⁶⁷の⁸⁶⁸同⁸⁶⁹時⁸⁷⁰に⁸⁷¹存⁸⁷²す⁸⁷³る⁸⁷⁴も⁸⁷⁵ある⁸⁷⁶か⁸⁷⁷否⁸⁷⁸か⁸⁷⁹。二⁸⁸⁰つ⁸⁸¹の⁸⁸²同⁸⁸³時⁸⁸⁴に⁸⁸⁵存⁸⁸⁶す⁸⁸⁷る⁸⁸⁸も⁸⁸⁹
ある⁸⁹⁰か⁸⁹¹否⁸⁹²か⁸⁹³。二⁸⁹⁴つ⁸⁹⁵の⁸⁹⁶同⁸⁹⁷時⁸⁹⁸に⁸⁹⁹存⁹⁰⁰す⁹⁰¹る⁹⁰²も⁹⁰³ある⁹⁰⁴か⁹⁰⁵否⁹⁰⁶か⁹⁰⁷。
二⁹⁰⁸つ⁹⁰⁹の⁹¹⁰同⁹¹¹時⁹¹²に⁹¹³存⁹¹⁴す⁹¹⁵る⁹¹⁶も⁹¹⁷ある⁹¹⁸か⁹¹⁹否⁹²⁰か⁹²¹。二⁹²²つ⁹²³の⁹²⁴同⁹²⁵時⁹²⁶に⁹²⁷存⁹²⁸す⁹²⁹る⁹³⁰も⁹³¹
ある⁹³²か⁹³³否⁹³⁴か⁹³⁵。二⁹³⁶つ⁹³⁷の⁹³⁸同⁹³⁹時⁹⁴⁰に⁹⁴¹存⁹⁴²す⁹⁴³る⁹⁴⁴も⁹⁴⁵ある⁹⁴⁶か⁹⁴⁷否⁹⁴⁸か⁹⁴⁹。
二⁹⁵⁰つ⁹⁵¹の⁹⁵²同⁹⁵³時⁹⁵⁴に⁹⁵⁵存⁹⁵⁶す⁹⁵⁷る⁹⁵⁸も⁹⁵⁹ある⁹⁶⁰か⁹⁶¹否⁹⁶²か⁹⁶³。二⁹⁶⁴つ⁹⁶⁵の⁹⁶⁶同⁹⁶⁷時⁹⁶⁸に⁹⁶⁹存⁹⁷⁰す⁹⁷¹る⁹⁷²も⁹⁷³
ある⁹⁷⁴か⁹⁷⁵否⁹⁷⁶か⁹⁷⁷。二⁹⁷⁸つ⁹⁷⁹の⁹⁸⁰同⁹⁸¹時⁹⁸²に⁹⁸³存⁹⁸⁴す⁹⁸⁵る⁹⁸⁶も⁹⁸⁷ある⁹⁸⁸か⁹⁸⁹否⁹⁹⁰か⁹⁹¹。
二⁹⁹²つ⁹⁹³の⁹⁹⁴同⁹⁹⁵時⁹⁹⁶に⁹⁹⁷存⁹⁹⁸す⁹⁹⁹る¹⁰⁰⁰も¹⁰⁰¹ある¹⁰⁰²か¹⁰⁰³否¹⁰⁰⁴か¹⁰⁰⁵。二¹⁰⁰⁶つ¹⁰⁰⁷の¹⁰⁰⁸同¹⁰⁰⁹時¹⁰¹⁰に¹⁰¹¹存¹⁰¹²す¹⁰¹³る¹⁰¹⁴も¹⁰¹⁵
ある¹⁰¹⁶か¹⁰¹⁷否¹⁰¹⁸か¹⁰¹⁹。二¹⁰²⁰つ¹⁰²¹の¹⁰²²同¹⁰²³時¹⁰²⁴に¹⁰²⁵存¹⁰²⁶す¹⁰²⁷る¹⁰²⁸も¹⁰²⁹ある¹⁰³⁰か¹⁰³¹否¹⁰³²か¹⁰³³。
二¹⁰³⁴つ¹⁰³⁵の¹⁰³⁶同¹⁰³⁷時¹⁰³⁸に¹⁰³⁹存¹⁰⁴⁰す¹⁰⁴¹る¹⁰⁴²も¹⁰⁴³ある¹⁰⁴⁴か¹⁰⁴⁵否¹⁰⁴⁶か¹⁰⁴⁷。二¹⁰⁴⁸つ¹⁰⁴⁹の¹⁰⁵⁰同¹⁰⁵¹時¹⁰⁵²に¹⁰⁵³存¹⁰⁵⁴す¹⁰⁵⁵る¹⁰⁵⁶も¹⁰⁵⁷
ある¹⁰⁵⁸か¹⁰⁵⁹否¹⁰⁶⁰か¹⁰⁶¹。二¹⁰⁶²つ¹⁰⁶³の¹⁰⁶⁴同¹⁰⁶⁵時¹⁰⁶⁶に¹⁰⁶⁷存¹⁰⁶⁸す¹⁰⁶⁹る¹⁰⁷⁰も¹⁰⁷¹ある¹⁰⁷²か¹⁰⁷³否¹⁰⁷⁴か¹⁰⁷⁵。
二¹⁰⁷⁶つ¹⁰⁷⁷の¹⁰⁷⁸同¹⁰⁷⁹時¹⁰⁸⁰に¹⁰⁸¹存¹⁰⁸²す¹⁰⁸³る¹⁰⁸⁴も¹⁰⁸⁵ある¹⁰⁸⁶か¹⁰⁸⁷否¹⁰⁸⁸か¹⁰⁸⁹。二¹⁰⁹⁰つ¹⁰⁹¹の¹⁰⁹²同¹⁰⁹³時¹⁰⁹⁴に¹⁰⁹⁵存¹⁰⁹⁶す¹⁰⁹⁷る¹⁰⁹⁸も¹⁰⁹⁹
ある¹¹⁰⁰か¹¹⁰¹否¹¹⁰²か¹¹⁰³。二¹¹⁰⁴つ¹¹⁰⁵の¹¹⁰⁶同¹¹⁰⁷時¹¹⁰⁸に¹¹⁰⁹存¹¹¹⁰す¹¹¹¹る¹¹¹²も¹¹¹³ある¹¹¹⁴か¹¹¹⁵否¹¹¹⁶か¹¹¹⁷。
二¹¹¹⁸つ¹¹¹⁹の¹¹²⁰同¹¹²¹時¹¹²²に¹¹²³存¹¹²⁴す¹¹²⁵る¹¹²⁶も¹¹²⁷ある¹¹²⁸か¹¹²⁹否¹¹³⁰か¹¹³¹。二¹¹³²つ¹¹³³の¹¹³⁴同¹¹³⁵時¹¹³⁶に¹¹³⁷存¹¹³⁸す¹¹³⁹る¹¹⁴⁰も¹¹⁴¹
ある¹¹⁴²か¹¹⁴³否¹¹⁴⁴か¹¹⁴⁵。二¹¹⁴⁶つ¹¹⁴⁷の¹¹⁴⁸同¹¹⁴⁹時¹¹⁵⁰に¹¹⁵¹存¹¹⁵²す¹¹⁵³る¹¹⁵⁴も¹¹⁵⁵ある¹¹⁵⁶か¹¹⁵⁷否¹¹⁵⁸か¹¹⁵⁹。
二¹¹⁶⁰つ¹¹⁶¹の¹¹⁶²同¹¹⁶³時¹¹⁶⁴に¹¹⁶⁵存¹¹⁶⁶す¹¹⁶⁷る¹¹⁶⁸も¹¹⁶⁹ある¹¹⁷⁰か¹¹⁷¹否¹¹⁷²か¹¹⁷³。二¹¹⁷⁴つ¹¹⁷⁵の¹¹⁷⁶同¹¹⁷⁷時¹¹⁷⁸に¹¹⁷⁹存¹¹⁸⁰す¹¹⁸¹る¹¹⁸²も¹¹⁸³
ある¹¹⁸⁴か¹¹⁸⁵否¹¹⁸⁶か¹¹⁸⁷。二¹¹⁸⁸つ¹¹⁸⁹の¹¹⁹⁰同¹¹⁹¹時¹¹⁹²に¹¹⁹³存¹¹⁹⁴す¹¹⁹⁵る¹¹⁹⁶も^{1197</}

す。けろく、之、こ、本、海、の、要、兵、と、あ、る、~~中~~ 中、の、情、状、一、社
 洗、白、の、一、二、揚、り、移、り、り、と、あ、る、と、あ、る、は、一、二、の、言、え、ぬ、と、あ、
 る、け、れ、も、ま、た、洗、白、の、一、二、と、あ、る、に、移、り、り、の、情、状、の、言、え、ぬ、か
 と、子、に、さ、す、は、言、え、ぬ、言、え、ぬ、と、あ、る、も、是、洗、は、す、ま、し、ま、さ、と、
 二、あ、つ、は、何、れ、か、事、情、に、あ、る、が、前、定、に、ま、た、が、弱、い、と、
 いか、な、を、休、心、理、の、に、一、家、を、洗、白、し、た、の、道、が、ぬ、ぬ、と、け、つ、
 中、の、情、の、弱、い、と、い、ふ、を、洗、白、の、し、方、に、ま、さ、さ、さ、し、情、状、の、言、え、ぬ、
 家、族、の、一、も、家、族、の、情、に、比、べ、て、弱、い、は、な、い、情、状、の、言、え、ぬ、
 け、れ、も、通、に、ま、さ、さ、感、じ、ぬ、洗、白、の、方、一、層、に、洗、白、す、と、あ、る、が、
 其、處、を、も、て、我、の、言、え、ぬ、と、あ、つ、つ、と、さ、す、は、善、い、事、に、面、白、い、と、
 作、に、ま、さ、さ、洗、白、し、た、と、さ、す、洗、白、に、感、動、せ、ぬ、し、う、は、な、い、情、状、を、お、か
 才、を、は、お、つ、と、家、族、の、言、え、ぬ、と、あ、る、の、言、え、ぬ、と、あ、つ、つ、と、
 一、月、の、言、え、ぬ、と、あ、る、と、あ、る、の、言、え、ぬ、と、あ、る、と、あ、る、の、言、え、ぬ、と、
 唯、独、行、つ、と、

(66)

正之百流吃し其見ふ畢竟我其計後を暫時全地
 ち干係り切離し孤死絶死の地に立し
~~其計後~~ 其計後 我も之れを託せ唯其の計後
 の計後 其の計後 大走の下に浮んて其の中に思はれ其の中に
 起伏を揚はりち強烈に其の中に思はれ其の中に
 殊なれが其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に
 あつて中に感をも弱しとて思はれ其の中に思はれ其の中に
 感揚の絶死化其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に
 横を其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に
 も定つて其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に
 計の其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に
 其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に
 其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に思はれ其の中に

(67)

対の隣りに居ることをいふは、余ははやく
ちろ其の予多中の ~~情~~ 情に 吾母あることの状を述べてあるのが
直の観念が状を言ふと果ては、
二つの愉快いとか、若し、
之減せぬ唯た、唯た、
て善通の九対の世を、
るを、
うする。其の、
うであつて、
せする。引り、
自らの、
跡の、

之は道
代身
許り
殊に
ゆゑ
あり

知れぬが併し其の跡の故終るが方に尋ねたるを得たは
 言ふ跡に實の跡を残りし字利害を残りしは善に非
 ずと併し其の跡に強ひて其の跡の故終るは一ト正氏の如く
 國象中に其の如きは事あり父愛の一ト正氏の如く其
 感と其を其の情とを引き離し二つの事と見れば其
 感と其の凡の感とを引き離し二つの事と見れば其
 収めやとすの如きは事あり其の如くは、其感は其の
 前情情と共に其の中に其の如くは、其感は其の
 其の如くは事定結と其の如くは、其感は其の
 乙只正氏の如くは事定結と其の如くは、其感は其の

の原典からして、その内容を論ずる（？）の必要も
 ない。要するに快感と痛みの両方から価値の最終の
 一般の性来するもの、条件は無限にわたるもの、
 けで甚るる条件を性来以外に価値の根を移さざるべし、
 之とすとも、理意は言ひ難し、主観的の二つの中、
 此の自己意識、功利、道徳、凡そ客観的であるものを
 情以外のものに其の根を得ざるべし、
 さるる海を這つて快感、痛みの客観化と云はば其の代表を以て
 するもの、ハワードの教授 *Spence's Sentiments & Source of Pleasure*
 加つて本来は其の本質から、西遊記、平家物語、大団
 圓、道徳の二つ、其の思想の、
 けは、凡人の評論あるべき、其の論の主旨は、

(177)

乃至我を誂れりといふ意味に
於て係を誂るは中々佳き事なり
女路を我に誂るは流るる事なり
例る事なき事なり
乃至我を誂れりといふ意味に
於て係を誂るは中々佳き事なり
女路を我に誂るは流るる事なり
例る事なき事なり

夫の *Plumieria* (ヤシノト) に見る *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と

との花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と

と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と

と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と

と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と

と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と

と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と *Plumieria* の花と

Calycotome *caerulea* 花 *Calycotome* *caerulea* 花

感の事として、永遠の事として、
 亭生 ~~亭生~~ 亭生は、永遠の事として、
 永遠の事として、永遠の事として、
 の事として、永遠の事として、
 概して、永遠の事として、
 併し、他方、永遠の事として、
 君、永遠の事として、
 に、永遠の事として、
 の事として、永遠の事として、
 下、永遠の事として、
 了、永遠の事として、
 は、永遠の事として、
 の事として、永遠の事として、
 左、永遠の事として、

の打算表志の趣意を併記し其の苦痛を伴ふるの之を以て
 七事の内何れも快感せざるを、我々の回を以て快とせざるを
 いふといふ事あるに於て、快楽は如竟其の母の早や快
 楽の傍に道徳的現象の伴ふる事ある苦痛乃至苦痛の故
 志が強弱に拘らざり来りたるに在りてある。
 予のこの如き絶対快楽の世に於ては差別ある方と普通の方
 方とあり得る。普通の方とは一物から来るものなり。物象
 の方解から其の構成条件を以てし得べく差別の方とは
 人々の個性の周囲の時空の秩序から来るものなり。其の判別を
 得る事と其の周囲の秩序の異なることとを以て研究する事によつてし
 知るを得べし斯くの二方を混同し得ざる。構成条件の
 ありてある事と斯くの二方を混同し得ざる。又文の上の徳徳を以てし



